

民生委員児童委員のための
住民支え合いマップづくり入門
(改訂版)





住民支え合いマップづくり入門(改訂版)

目 次

はじめに	1
1. 住民支え合いマップの目的	2
2. 民生委員にとっての取り組みの意義	3
3. 住民支え合いマップで調べる内容	4
4. 住民支え合いマップの作成方法 ～取り組みの6つのステップ～	8
改訂版作成の背景と特徴	8
事前準備 住民支え合いマップの作成に必要な住宅地図の用意と凡例を決める	10
第1ステップ 民生委員が知っている要援護者等の情報をマップに記載する	11
第2ステップ 要援護者宅を訪問して得た情報をマップに追加する	12
第3ステップ 世話焼きさん宅を訪問し要援護者等の情報を入手する	13
第4ステップ 世話焼きさんを一堂に集め支え合いの実態を聴取する	15
第5ステップ 世話焼きさんと共に、要援護者等の問題解決方法などを協議する	18
第6ステップ 住民の手でご近所の課題解決に取り組んでもらう	21
5. 実践に向けての留意点	22
(1)個人情報の取り扱いのポイント	22
(2)住民支え合いマップを活用した定例会での事例検討と課題の明確化	23
(3)住民支え合いマップの引継ぎのポイント	24
6. 各種関係資料	27
取り組み課題整理表(様式例)	29
住民支え合いマップ引継ぎシート(様式例)	31
住民支え合いマップ引継ぎシート(記入例)	34



はじめに

厚生労働省では、「地域共生社会」の実現を掲げ、地域課題の解決力、地域丸ごとのつながり、地域を基盤とする包括的支援の強化、専門人材の機能強化・最大活用を骨格とした改革が進められています。さらに、令和3年4月から施行される改正社会福祉法では、引きこもりなど制度のはざまに孤立した人や家庭を把握し、伴走支援できる体制をつくる「重層的支援体制整備事業」がスタートし、困りごとの解決を目指すだけでなく、社会とのつながりを取り戻すことで困りごとを小さくするような関わりも重視されます。民生委員児童委員（以下、「民生委員」）と関わりのある福祉専門職は、分野を問わず「断らない相談支援」を目指すこととなり、就労や学習など多様な形で社会参加を促す「参加支援」や、交流や参加の機会を増やす「地域づくり」をセットで行うこととなります。このような地域福祉の転換期にあって、民生委員に対する期待や要請がますます高まることが想定されます。

一方で、全国民生委員児童委員連合会が提唱している「100周年活動強化方策」の中では、自治会・町内会と民生委員の連携強化や住民同士が支え合える仕組みづくりへの協力等、民生委員を、“地域づくりの担い手”や“多様な関係者につなぐ結節点”として位置付けており、活動における住民や関係機関・団体とのネットワークの重要性を強く示唆しています。

また、北海道民生委員児童委員連盟（以下、「道民児連」）では、平成20年3月に厚生労働省が発表した「これからの地域福祉のあり方に関する研究会報告書」に基づき、共助の推進が今後の地域福祉の要であると考え、平成21年度から「地域支援調査（住民支え合いマップ調査）事業」に取り組んできました。この事業は、「地域共生社会」の実現に向けた具体的な手段として最も有効な取り組みのひとつであり、住民同士の支え合いによる課題解決や、民生委員が自治会・町内会、関係機関・団体と実効性の高い有機的なネットワーク形成が図る手段として非常に有効であると考えています。

そして、平成29年度に民生委員制度創設100周年記念事業の一環として、住民支え合いマップの更なる普及を図ることを目的に「地域支援調査（住民支え合いマップ調査）」事業の研修用DVDおよびテキストを作成しました。しかしながら、新型コロナウイルスの感染拡大にともない、従来の手法による住民支え合いマップの取り組みが困難な状況となってしまいました。

そこで、道民児連では、住民福祉総合研究所の木原孝久所長をはじめ、道内において住民支え合いマップに取り組んでいる委員からご意見をいただき、日常的な活動の延長として、新型コロナウイルスの感染予防も意識した新たな住民支え合いマップの取り組みについて検討を行い、先に発行した「住民支え合いマップづくり入門」の改訂版として、本書の発行に至りました。住民が主体となった支え合いの仕組みづくりや、コロナ禍における活動実践の参考として、本書をご活用いただければ幸いです。

おわりに、本書の作成にあたり全面的にご協力を賜りました住民福祉総合研究所の木原孝久所長に厚くお礼を申し上げます。

令和3年3月

公益財団法人北海道民生委員児童委員連盟
会長 佐川 徹

住民支え合いマップとは…

福祉のまちづくりのために、住民の支え合いの実態を住宅地図に記入して、地域の取り組み課題を明らかにし、その課題解決に向けて支え合いの取り組みを進める手法

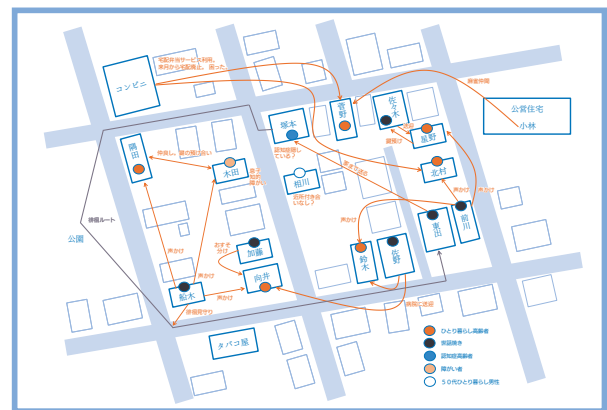
●「福祉マップ」と「住民支え合いマップ」の違い

地図上の要援護者に印を付けるだけの従来の「福祉マップ」とは異なり、「住民支え合いマップ」は、要援護者に周囲の誰がどのように関わっているのかも調べます。この調査によって、住民の暮らしにくさの原因やその問題に対し、住民がどのような解決努力をしているのかが見えてきます。そのことを生かすことで、効率的な福祉のまちづくりができるのです。

従来の福祉マップ



住民支え合いマップ



●住民支え合いマップづくりの目的

誰もがどんな要援護状態になっても、住み慣れた家や地域で安全かつ心豊かに生きたいと願っています。要援護者が地域で生きるために、支え合いは不可欠です。

住民支え合いマップは、ただ単に地域の要援護者と世話焼きさんの関係を線で結ぶことが目的ではありません。住民支え合いマップから見えてくる要援護者の困りごとや、地域の課題を明らかにして、福祉のまちづくりに取り組んでいくことがマップ作成の最大の目的となります。

●キーワードは、“世話焼きさん”

住民支え合いマップを語るうえで“世話焼きさん”の存在は欠かせません。困りごとを抱える要援護者等に何かとお世話を焼く住民のことを、住民支え合いマップでは“世話焼きさん”と呼んでいます。世話焼きさんは、①困った人がいたら気になって食べ物がのどを通らない、②困っている人を見つけたら即刻関わる、③相手（要援護者）から見込まれる、④人間が大好き、⑤人に好き嫌いが無いという特徴があります。世話焼きさんをどれだけ見つけ協力関係になるかが、効果的な支え合いを進めるポイントになります。

(1) 住民支え合いマップに寄せられる期待の背景

民生委員は、地域や社会からさまざまなことが期待されています。特に、平成29年以降は社会福祉法の改正も相まってその期待も徐々に変化してきました。全国民生委員児童委員連合会が策定した「民生委員制度創設100周年記念活動強化方策」では、この時代に民生委員に期待されているものを以下のとおり整理しています。住民支え合いマップの実践は、以下の期待に応える手段として非常に有効です。

◆民生委員・児童委員に期待されているもの

- (1) 変わらぬ住民の身近な相談相手、見守り役としての活動
- (2) 地域の福祉課題を明らかにしていくこと
- (3) 児童委員であることを意識した活動
- (4) 多様な関係者をつなぐ「結節点（ハブ）」となること
- (5) 住民や地域の代弁者として積極的な意見具申、提言
- (6) 地域づくりの担い手となること

出典：全国民生委員児童委員連合会

「全民児連民生委員制度創設100周年記念活動強化方策」

(2) 民生委員がマップづくりに取り組む意義

①自らの活動のため～地域福祉推進の手段～

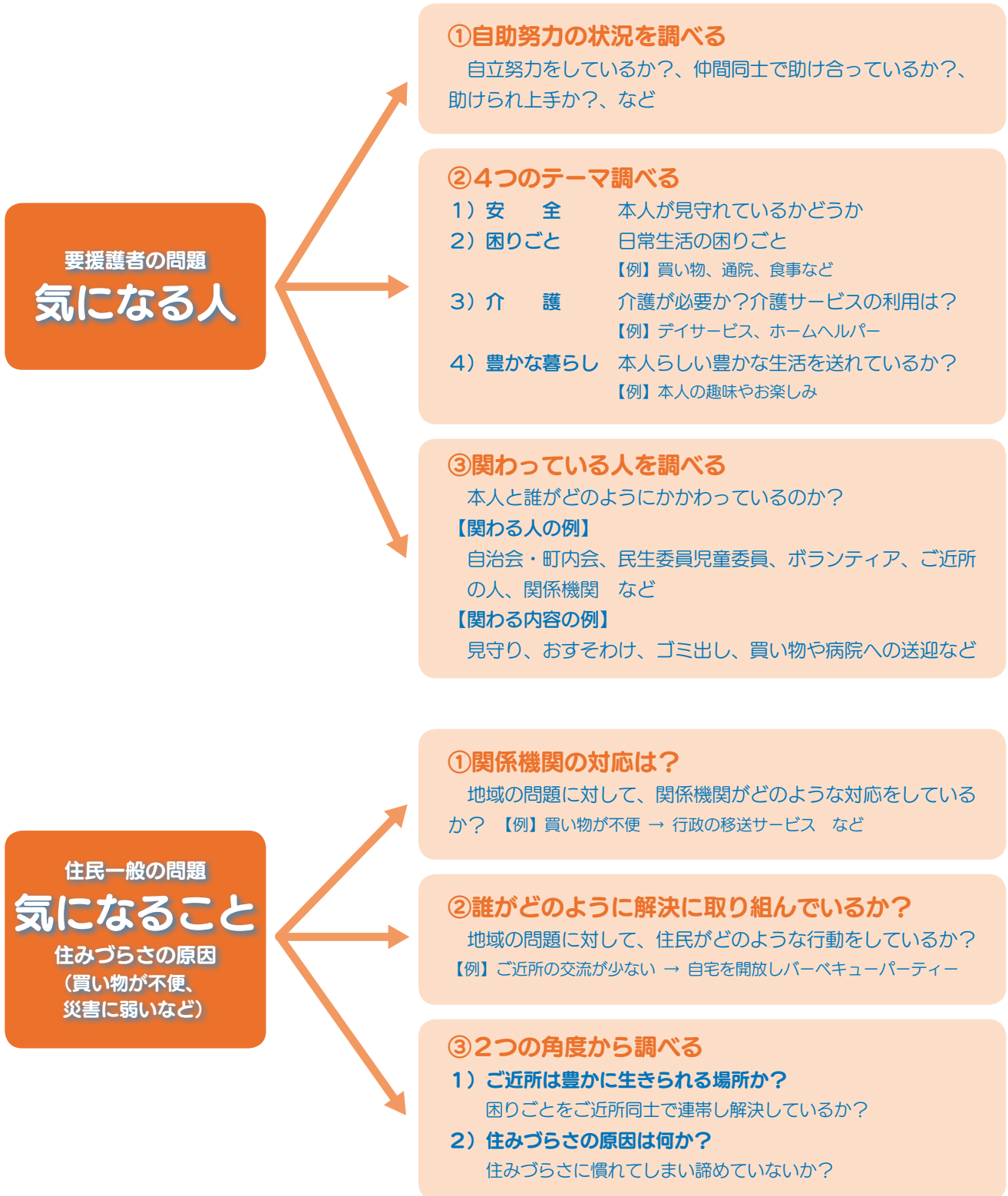
住民支え合いマップは住民による支え合いの実態を可視化したものです。可視化することで新たな課題に気づくこともあり、住民の期待に応える手段として有効です。また、住民支え合いマップ作成の過程で、町内会役員等とのつながりが強まる場合があります。目に見えるマップ以外で、“地域のつながり”や、“気づきの共有”を図る手段としても、非常に有効です。

②仲間のための成果物として～情報共有のためのツール～

委員自身が事故や災害などにより活動が困難になった場合、その担当区域は、近隣の担当区域の委員や民児協会長がフォローすることが一般的です。予め作成した住民支え合いマップがあると、地域の要援護者等の情報が可視化されたものであるため、フォローにあたる委員への引継ぎや申し送りがスムーズになります。関連して、自らが委員を退任する場合においても、後任委員への引継ぎ手段として非常に有効です。

つまり、住民支え合いマップは、災害に備える取り組み、仲間との情報共有の手段、新任委員へ円滑な引継ぎにあたって、非常に有効な情報共有のためのツールとなります。

住民支え合いマップでは、大きく分けると、「(要援護者などの)気になる人」、「(住民一般の問題などの)気になること」の2つについて調べてます。



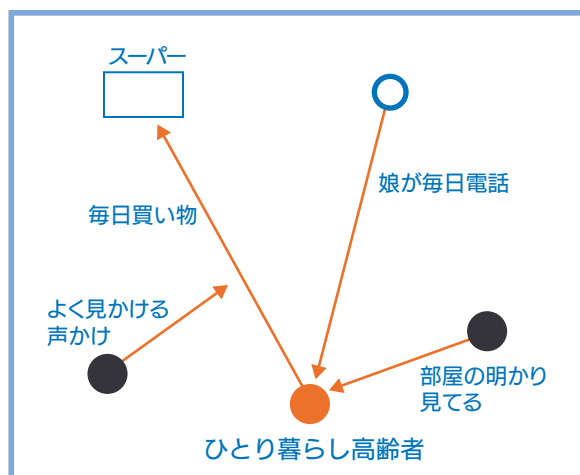
調べる内容のポイント

●要援護者の見守り状況を調べる

●本人と地域のあらゆる接点をマップで探る

ひとり暮らしの方はさまざまな形で見守られています。右のマップのように、これらを全部合わせると、ほぼ毎日誰かが見守っていることになり、孤立死が防げる可能性が高まります。

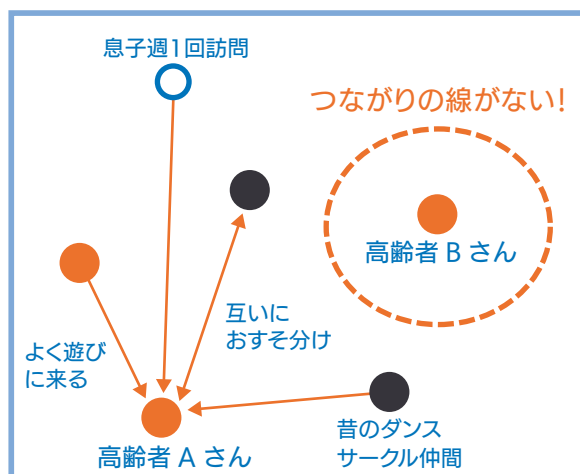
直接見守る以外にも、部屋の明かりでさりげなく見守っている人や、本人がよく行くスーパーの店員など、本人と地域のさまざまな接点を洗い出すと良いでしょう。



●見守りの線を引けば「気になる人」が浮かび上がる

住民支え合いマップを作成した際、周りからたくさんつながりの線が引けている要援護者は、見守ってくれる、支援してくれる人がいるということなので、とりあえずは安全です。

一方、つながりの線が少ない、または全くない人は、「見守りが足りない人」ということになります。このように、つながりの線が少ない（全くない）人を調べて注意することも、孤立死を防ぐ手立てになるでしょう。



トピックス

助けられ上手さん

住民支え合いマップでは、上手に近隣の助けを借りて困りごとの解決や自分らしい生活を営んでいる人のことを“**助けられ上手さん**”と呼んでいます。ある調査によると、困っている人を見つけた場合、頼まれなくても助ける人が23%、頼まれれば助ける人が72%。つまり、95%の人が助けてくれます。しかしながら、現実的に助け合いが進まないのは、日本人の大多数が「助けて！」と言えないためミスマッチが生じているからです。

助けられ上手さんは、自らの福祉問題を考え、その解決策として自らの困りごとをオープンにしご近所に助けを求めることができる人です。自らの困りごとをオープンにする行為は、まさに“自助”であり、支え合いのスタート地点とも言えます。“支え合いの地域づくり”を進めるためには、担い手となる世話焼きさんの発掘は当然大切ですが、**当事者の方々に助けられ上手さんになってもらうことも大切**です。双方向で互いに協力して築き上げていくことがご近所による支え合いの第一歩と言えるでしょう。

●要援護者の困りごとを調べる

●ひとり暮らし高齢者は何らかの困りごとを抱えている

ひとり暮らしの高齢者は、些細なことから大きなことまでさまざまな困りごとを抱えています。その困りごとを表に出す方は多くありません。住民支え合いマップづくりの場に世話焼きさんがいれば、自分が周囲の要援護者の困りごとにどのように対応しているのかを話してくれます。また、助けられ上手の要援護者がいれば、自分の困りごとを話してくれます。「見守られているから安全！」ではなく、些細なことでも困りごとを丁寧に調べ上げていくことが大切です。

【ひとり暮らし高齢者の困りごとの例】

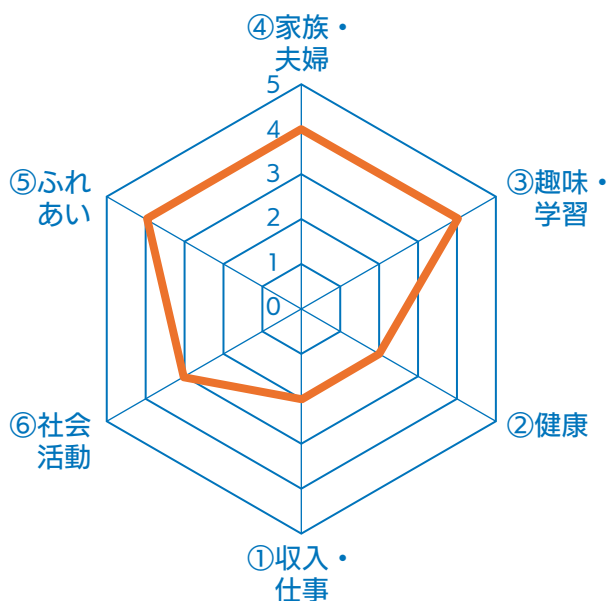
- ①回覧板が良く読めない
- ②班（班長）の役割が大変負担
- ③犬の散歩が大変
- ④草取りや庭木の剪定が大変
- ⑤ゴミ出しが大変
- ⑥具合が悪くなったとき心配

周りから見れば些細な困りごとでも、高齢者本人にとっては大きな困りごと。暮らしにくさの原因になっていることも…。

●豊かな暮らしの営みを調べる

●要介護状態であっても心豊かな地域生活を応援する

右下のダイアグラムは、人間が豊かに生きるための6項目を5段階評価するための指標です。住民支え合いマップでは、困りごとの解決の更にある「その人らしい豊かな暮らし」にも着目します。要援護者の状況をこのダイアグラムに当てはめると、何が欠けているのかが見えてきます。



【評価項目】

- ①収入・仕事
仕事をしているか、十分な収入があるか
- ②健康
健康状態はどうか
- ③趣味・学習
趣味をもっているか
- ④家族・夫婦
家族とともに暮らせているか
- ⑤ふれあい
地域住民とのふれあいがあるか
- ⑥社会活動
ボランティアなど社会活動に参加しているか

【評価の指標】 5～完全に充足、4～かなり充足、3～どちらとも言えない、2～あまり充足されていない、1～ほとんど充足されていない

●対象別の調べるポイント

○障がい児者の問題で調べること	
1 家族は障がいをオープンにしているか。	障がい者がいる家庭も、そのことを隠す傾向があります。小さい頃から地域と離れて別の学校や施設に通ってきたため交流の機会が少ないのです。地域のふれあいやお楽しみ活動の輪に入っているか調べてみましょう。
2 ご近所の人と交流はできているか。	
3 地域のグループに受け入れているか。	
4 ご近所は家族を支援しているか。	

○デイサービス利用者者の問題で調べること	
1 サロンや趣味等に加わっているか。	デイサービスを利用すると、地域のふれあいの輪からはずれていく傾向がありますので、その実態を調べてみましょう。
2 施設で自立を目指しているか。	
3 利用は本人の意向か家族の意向か。	

○認知症の人の問題で調べること	
1 家族は認知症をオープンにしているか。	家族が認知症を隠す風潮がありますが、それでは支援できません。徘徊ルート沿いに住む住民がどれだけ見守っているかもマップで確かめてみましょう。
2 住民は本人を地域の輪に加えているか。	
3 地域ぐるみで見守りをしているか。	

○要介護者の家族の問題で調べること	
1 在宅サービスを過剰に利用していないか。	要介護者に住民が関わる事例はなかなかありません。ご家族による介護で充足されていると思っているからです。家族のストレス対策や、要介護者の豊かな生活支援なども調べてみましょう。
2 息子や、夫が介護するケースはあるか。	
3 地域は介護者を支援しているか。	
4 ご近所の介護者同士助け合っているか。	

○施設入所者の問題で調べること	
1 時々里帰りしているか。	最近では施設に入所しても、ときどき里帰りをしたり、昼間だけ地域のサロン等に入れてもらっている人もいます。地域や施設の応援が不可欠です。
2 地域のサロンや趣味活動に参加しているか。	
3 友達などが施設訪問しているか。	
4 実家に近いところに入所しているか。	

活動のヒント① 「問題解決事例を広げていく！」

住民支え合いマップをつくと、地域住民（世話焼き）が要介護者の困りごとを解決している事例が見えてきます。一見すると、単に「すでに問題が解決した事例」と捉われがちですが、他の要介護者が同じような困りごとを抱えている場合、すでに取り組みされているこの事例はこれからの取り組みのヒントになるのです。

例えば、買い物に不便を抱えている要介護者を近所のスーパーまで送迎している事例があれば、その地域において住民による送迎チームをつくる等、他の要介護者にも同じような支援ができる可能性が大きいわけです。そのような意味では、すでに困りごとを解決している事例は、これからの地域づくりにとって貴重な情報となりますので丁寧に調べていきましょう。

●改訂版作成の背景と特徴

道内の民生委員が住民支え合いマップの取り組みの着手に足踏みする理由として、「とにかく、住民支え合いマップは難しい」という意見がよく聞かれます。合わせて、「住民からの聞き取りはハードルが高い」、「自分ひとりだけでマップを作るのは不安」、「個人情報取り扱いは大丈夫?」、「支え合いマップの管理はどうするのか?」など、住民支え合いマップの取り組みは非常に効果的であると認識しているものの、取り組みにあたっての課題が先行してしまい、最初の一步を踏み出せない民生委員が多いようです。

一方、全国モニター調査（H28全民児連実施）の北海道の結果をみると、民生委員の悩みや苦勞で上位を占めるのは、「プライバシーにどこまで踏み込んでよいのか戸惑う」、「支援を行うにあたって必要な個人・世帯の情報が提供されない」、「支援を必要としている人がどこにいるのか分からない」となっており、いずれも住民支え合いマップの取り組みを進めるにあたって深く関連する事項となっています。また、同調査において、道内の約22%の民生委員が「活動を応援してくれる住民はいない」と回答している実態も明らかになっています。

関連して、道民児連が実施した令和2年度市町村民児協等基本調査の結果によると、住民支え合いマップに取り組んでいる単位民児協の割合は14.6%でした。しかし、「今は取り組んでいないが検討している」と回答した単位民児協が18.6%、「取り組んでいない（状況により取り組む）」と回答した単位民児協が54.8%に上り、潜在的には73.4%の単位民児協が、住民支え合いマップの取り組みにある程度前向きであることが明らかになりました。

以上のような背景を踏まえて、道民児連では、直ちに住民からの聞き取りによって住民支え合いマップを作成するのではなく、まずは、日常的な民生委員活動の延長として取り組みを進め、段階的にステップアップすることで、住民支え合いマップを作成する手順を検討しました（次頁のイメージ図参照）。

この新たな作成手順の特徴は、現時点で世話焼きなどの地域住民のことを把握していなくとも、行政から提供された要援護者の個人情報や前任者から引継ぎを受けた世帯票があれば、段階的に地域の世話焼きにたどり着けることです。また、第2ステップまでは、要援護者の訪問活動など日常的な活動の延長上にあるので、その時点までそれほど大きな負担にはなりません。

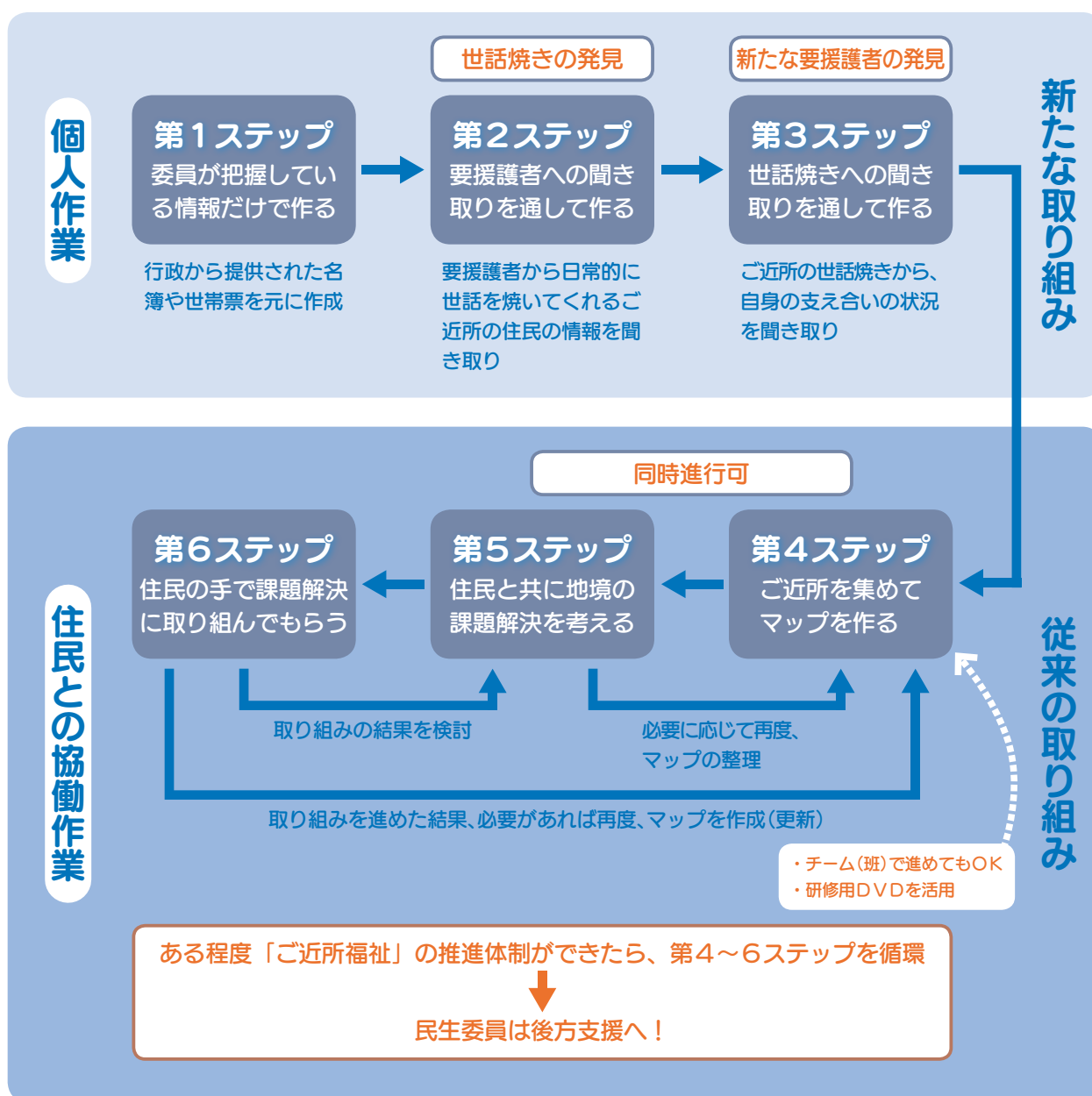
この改訂版における第1～3ステップは、住民支え合いマップ作成の大きな目的である「住民と協働した地域福祉活動」に進むための準備作業となり、第4～6ステップが、住民からの聞き取りや課題解決など、これまで道民児連が進めてきた内容となります。

必ずしも、すべて手順通りに進めなければならないということではありません。活動の状況に応じて、第1～3のステップで完了しても構いません。無理のない範囲で、段階的に住民支え合いマップの作成にお取り組みください。

【住民支え合いマップ作成の6つのステップ】

- 第1ステップ 民生委員が知っている要援護者等の情報をマップに記載する
- 第2ステップ 要援護者宅を訪問して得た情報をマップに追加する
- 第3ステップ 世話焼きさん宅を訪問し要援護者等の情報を入手する
- 第4ステップ 世話焼きさんを一堂に集め支え合いの実態を聴取する
- 第5ステップ 世話焼きさんと共に、要援護者等の問題解決方法などを協議する
- 第6ステップ 住民の手でご近所の課題解決に取り組んでもらう

新たな支え合いマップ作成手順と循環のイメージ図



事前準備

住民支え合いマップの作成に必要な住宅地図の用意と凡例を決める



事前準備のポイント

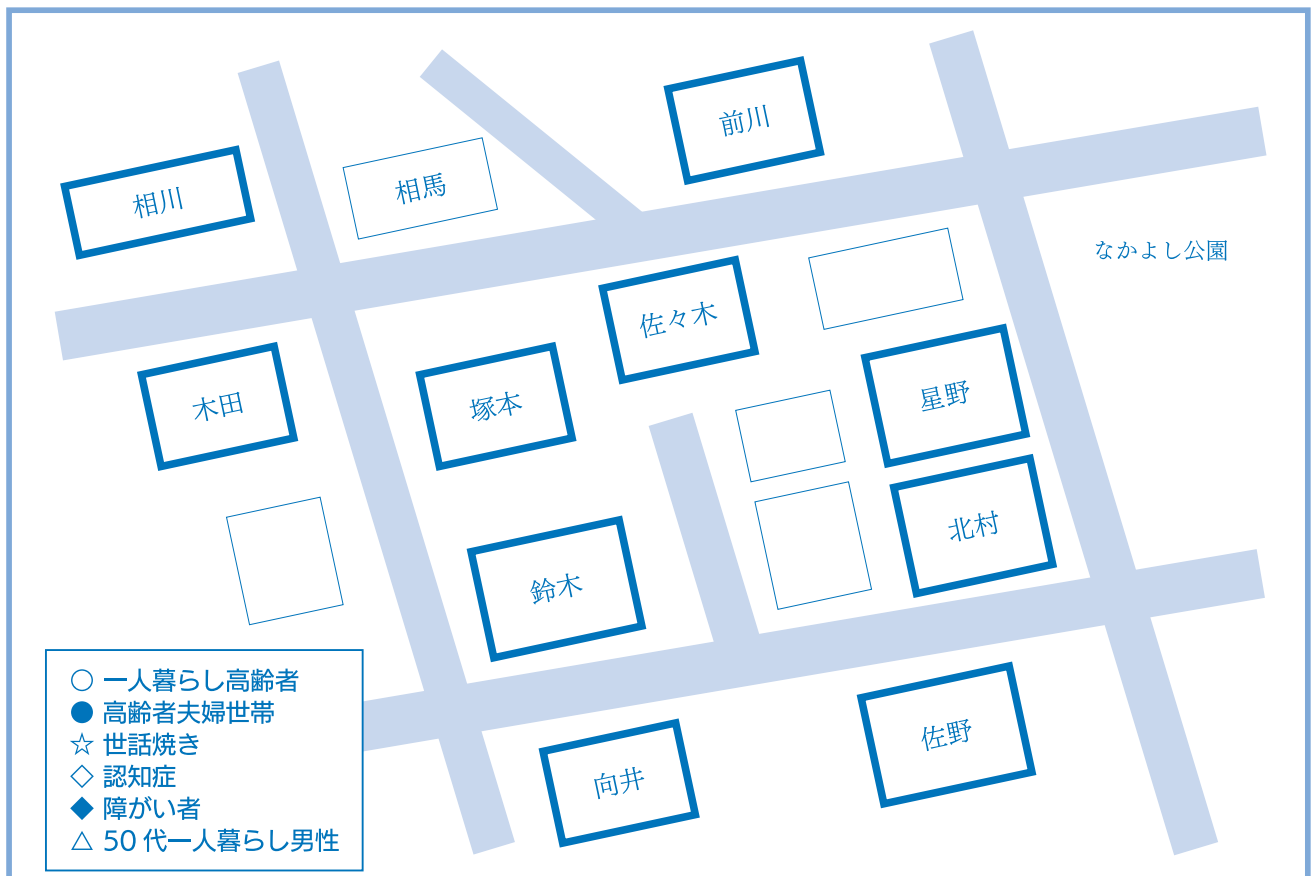
●概ね50世帯の住宅地図を用意する

北海道の民生委員の平均担当世帯数は約180世帯ですが、住民支え合いマップはご近所単位で作成するので、30～80世帯分の地図を用意しましょう。これ以上の世帯数でマップを作成すると、ご近所同士のつながりが見えにくくなるうえ、情報量も多くなってしまい、個別課題や地域課題が見えにくくなってしまいます。つまり、担当区域全てをカバーするためには、分割して4～5つのマップを作成することになります。

●凡例（印）を決めておく

住民支え合いマップを作成する前に、下図の例のように一人暮らし高齢者や世話焼きさんなど、予め凡例を決めておきましょう。民児協として取り組む場合は、民児協共通の凡例を設定すると良いでしょう。また、市販のマークシールを活用すると非常に便利です。

【事前準備段階のマップのイメージ】



※上記凡例は2色印刷のため記号を使用していますが、通常は色分けします。

第1ステップ

民生委員が知っている要援護者等の情報を マップに記載する

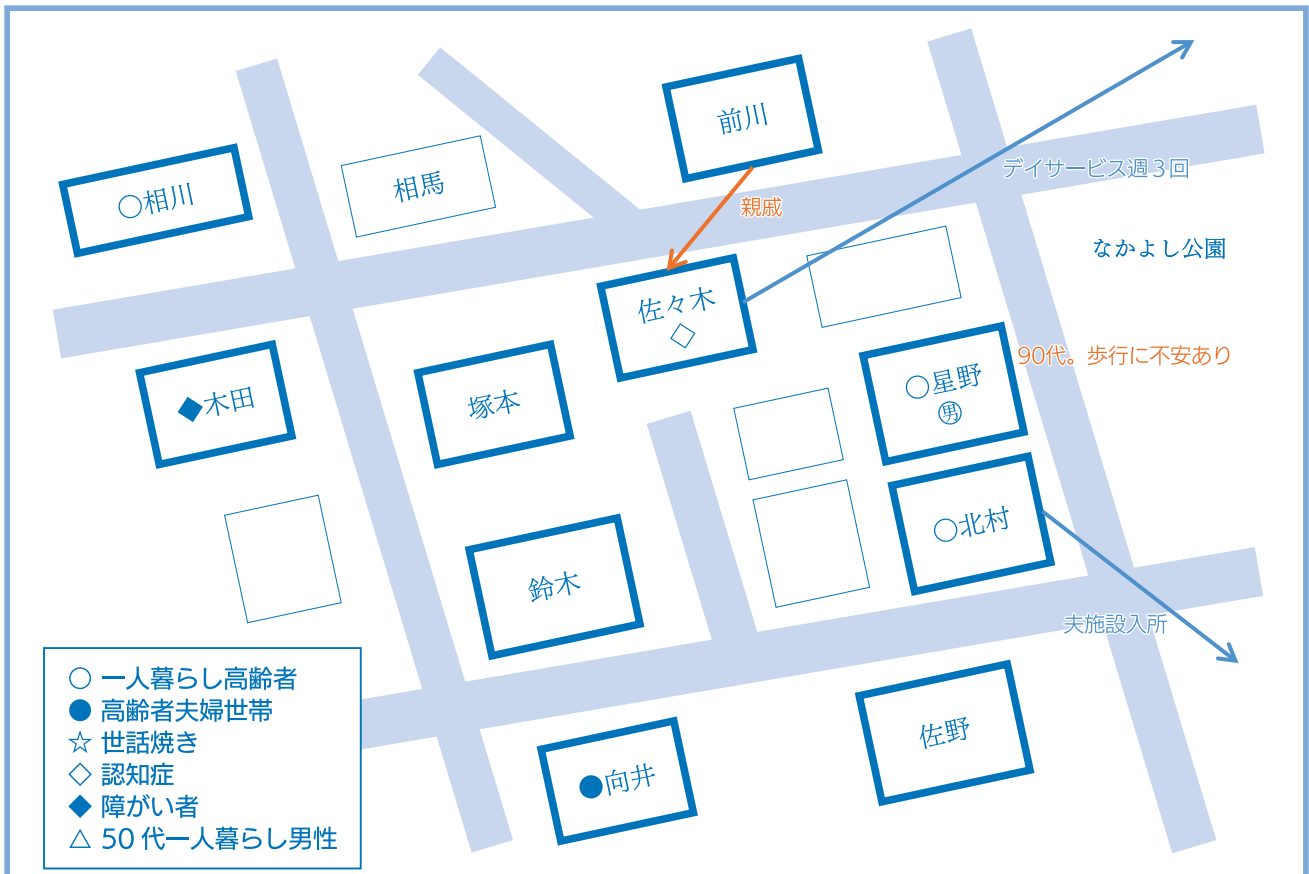
この時点では、いわゆる「住民支え合いマップ」とは言えませんが、次のステップに進むために、現在把握している要援護者等の情報を地図上に整理しましょう。



整理のポイント

- 高齢者に印をつけるとき、〇〇歳以上というように、年齢にこだわる必要はありません。あくまでも委員自身が気になる住民であれば、印をつけましょう。
- 一人暮らし高齢者のうち、特に男性は近隣の助けを求めることが苦手な方が多いので、チェックするようにしておきましょう。
- 要援護者のうち、特に気になることや困りごとがあるようであれば、マップに記入しておきましょう。また、最近施設に入所した高齢者や、デイサービスセンター等、福祉サービスの利用状況も分かれば線を引きましょう。
- 今の時点で住民同士の支え合いの実態を把握しているのであれば、分かる範囲でつながりの線を引きましょう。

【第1ステップでのマップ作成イメージ】



※上記凡例は2色印刷のため記号を使用していますが、通常は色分けします。

第2ステップ

要援護者宅を訪問して得た情報を マップに追加する

日常的な訪問活動の中で、ご本人からの聞き取りにより、近隣関係や支え合いの実態を聞き取ります。このことで、いわゆる「世話焼きさん」が見つかるかもしれません。



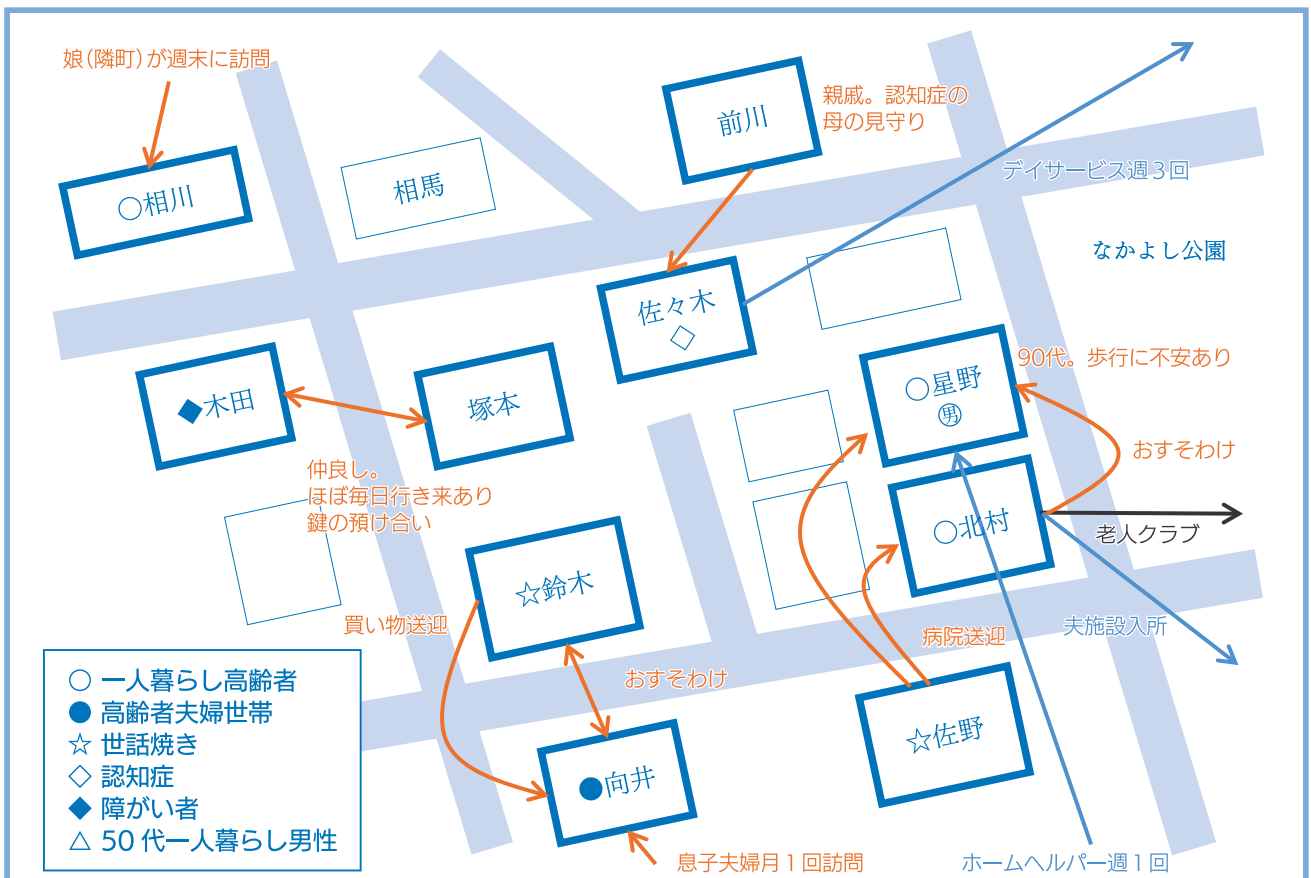
聞き取りのポイントと情報の整理

委員自身が把握している情報は聞き取りする必要はありません。把握していない事項を、以下の例を参考に聞き取りを進めてみましょう。特に、いわゆる「世話焼きさん」を発見するために、**近隣住民の誰に日常的な助けを得ているか**という情報がここでは重要です。日常的に要援護者のお世話をしている近隣住民は「世話焼きさん」なのでチェックするようにしましょう。

【聞き取り内容の例】

- ご近所で仲の良い近隣住民
- 日常的に助けられている住民（世話焼きさん）
- 老人クラブや趣味サークルなどの加入状況
- 外出の機会
- 身内の訪問と頻度

【第2ステップでのマップ作成イメージ】



※上記凡例は2色印刷のため記号を使用していますが、通常は色分けします。

第3ステップ

世話焼きさん宅を訪問し 要援護者の情報を入手する

第2ステップを終えた時点でだんだん「住民支え合いマップ」に近づいてきましたが、世話焼きさんに聞き取りすることで、新たな要援護者の発見につながることもあります。また、これからの民生委員活動を応援してくれる強力なパートナーになる可能性もありますので、あいさつも兼ねて訪問してみましょう。



世話焼きさん宅訪問時のポイント

すでに世話焼きさんと知り合いであれば良いのですが、民生委員は平均して約180世帯を担当していることから、全く知らない住民宅を訪問することも考えられます。そこで、初めて会う世話焼きさん宅を訪問する際のポイントを以下のとおり整理しましたので、参考にしてください。

- 民生委員であることを証明するために、身分証明書を必ず携行する。
- 訪問の際、民生委員がどんな立場で、どのような活動をしているのかを簡潔に説明できるようにしておく。(パンフレット等を使用すると効果的)
- 民生委員活動の一環として住民支え合いマップを作成していることを説明できるようにしておく。
- 民生委員には守秘義務があるので、教えてもらったことは口外しないことを約束する。

《世話焼きさん宅訪問の際の説明例》

- 民生委員** こんにちは。この地区の民生委員の〇〇と申します。(身分証を提示) 突然お邪魔してすみません。少しお時間よろしいでしょうか？
- 佐野** どのようなご用件でしょうか？
- 民生委員** 少しだけ民生委員の活動をご説明しますと、私たちは国から委嘱されたボランティアで住民の困りごとの相談に乗ったり、困っている人を見つけたら関係機関につないだり、高齢者などの安否確認など、いろいろな活動をさせてもらっています。
- 佐野** そうなんですか。民生委員って名前は聞いたことあるけど、そんなにいろいろ仕事があるんですね。大変ご苦労様です。
- 民生委員** ありがとうございます。実はこの度お邪魔したのは、その活動の一環として、地域の支え合いの実態を調べているんです。地域にお住まいの高齢者のお家を訪問しているのですが、道路向かいの北村さん(要援護者)のお宅を訪問した際に、佐野さんに病院に車で送ってもらっていると聞きまして…。
- 佐野** えっ、やっちゃいけないことだったんですか？
- 民生委員** そうではないんです。佐野さんのようにご近所の高齢者のお世話を焼いてくれる方は、私たちにとってもありがたい存在です。今日、お邪魔したのは佐野さんなら、他の方にもお世話を焼いてくれているかもしれないと思って、そのことを聞きに来たのです。
- 佐野** そうですか。でも、個人情報保護法だとかというやつに違反しませんかね？
- 民生委員** 民生委員は法律で守秘義務が課せられています。その点をご安心ください。それに差し支えない範囲で結構です。
- 佐野** へえ、そうなんですね。それであれば、自分は大したことはしていないと思うけど、何でも聞いてください。



聞き取りのポイントと留意点

世話焼きさん宅を訪問する目的は、活動に協力してくれそうな地域住民と知り合いになることと、地域の支え合いの情報を得ることの2点です。世話焼きさんへの聞き取りで中心になるのは、主に、世話焼きさん自身が気になっている要援護者等の情報です。もしかすると、行政や福祉関係機関も把握していない困りごとを抱えた事例が見えてくるかもしれません。

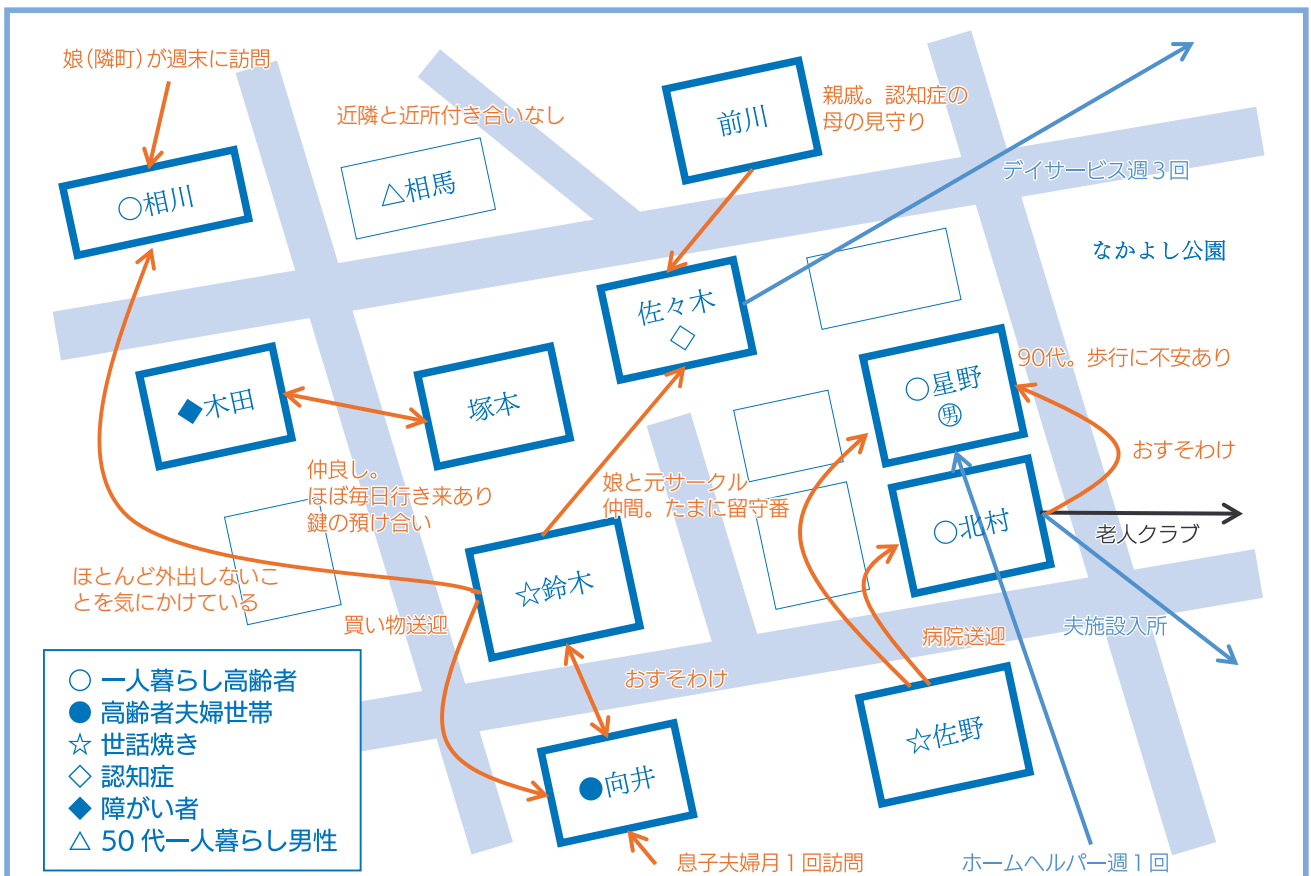
ただ、世話焼きさんに聞き取りをする際に留意しておかなければならないことは、世話焼きさん自身は特別なことをしているつもりがないケースが多いということです。つまり、こちらから「もしかして、〇〇さんの家の除雪もしていませんか？」と聞いて、初めて「そういえば、それもやっているね」となります。住民を集めて聞き取りをすると、住民同士がお互いの助け合いを気づかせる場面もありますが、戸別訪問による聞き取りだと、そうはなりません。ここが戸別訪問による聞き取りの弱点とも言えます。

また、この段階で民生委員が第2ステップまでで作成したマップを、近隣住民に見せることは民生委員法の守秘義務に抵触する可能性も否めませんので控えましょう。

【聞き取り内容の例】

- 要援護者へお世話している内容（例：買い物・病院の送迎、除雪、ゴミ捨て、おすそ分け等）
- お世話はしていないが気になっている近隣住民のこと（例：ひきこもり、認知症等）
- 50代、60代の一人暮らしの男性（孤独死の確率が高いため）

【第3ステップでのマップ作成イメージ】



※上記凡例は2色印刷のため記号を使用していますが、通常は色分けします。

第4ステップ

世話焼きさんを一堂に集め 支え合いの実態を聴取する

ここからが従来の一般的な“住民支え合いマップづくり”となります。第3ステップとは異なり、住民を集めて聞き取りをすると、住民同士がお互いの助け合いを気づかせることが期待できます。また、世話焼きさんと地域の実態を共有できるメリットもあります。地域住民を4～5名集めて、聴取（聞き取り）をしてみましょう。



第4ステップの留意点

第3ステップまでで作成したマップについては、住民から寄せられた情報の他、**行政から提供のあった個人情報など**が含まれる場合があります。予め作成したマップを近隣住民に見せることは民生委員法の守秘義務に抵触する可能性も否めませんので控え、**第4ステップでは、未記入の地図を使用するようにしましょう。**第4ステップで集約した情報については、予め作成したマップに追記する取扱いであれば、個人情報漏洩などの事故を防ぐことができます。

(1) 住民からの聴取（聞き取り）の流れ

① 住民支え合いマップを作成する範囲を決める

まず、予め用意した住宅地図の中から、住民支え合いマップを作成する範囲を決めます。分かりやすいように線で囲うと良いでしょう。前述のとおり、調べる範囲は30～80世帯分に限定します。民生委員の担当地区世帯数の平均は約180世帯ですから、民生委員が住民支え合いマップを作成する場合は、3～4つのマップを作ることになります。



② お集まりいただいた住民の家に印を付ける

次にお集まりいただいた住民の家に印を付けましょう。一人の住民が把握しているご近所の状況は多くても10世帯程なので、バランスよく分布できるようにお集まりいただくと効果的です。また、印を付ける際、マジックペンで記入する方法の他、予めマークシールを用意しておき、都度貼り付けると効率が上がります。



③ ひとり暮らし高齢者や高齢者のみ世帯等、気になる世帯に印を付ける

次に、ひとり暮らし高齢者など、気になる人、心配な人に印を付けていきます。予め、以下のとおり凡例を決めておき、マークシールを貼り付けていくと作業はスムーズに進みます。印を付ける際に、性別も確認しておくといいでしょう。また、高齢者を調べる場合、70歳以上というように年齢に区切りをつけて調べるのも結構ですが、あくまでも調べる基準は、同じ地域の住民として気になっている人ですので、厳密に年齢にこだわる必要はありません。

凡例 (例示)

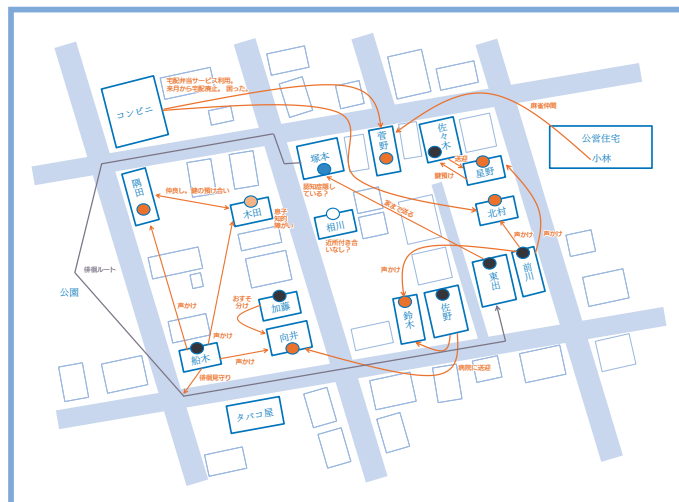
- ひとり暮らし高齢者
- 高齢者のみ世帯
- 認知症高齢者
- 障がい者
- 50代ひとり暮らし男性
- 世話焼き



④ 支え合いの実態を調べ線で結ぶ

次に、地図上に出てきた要援護者の困りごとや、それに対する地域住民の関わりの実態を調べ、線で結びます。中々支え合いの実態が出てこない場合は、「おすそ分けしている家は？」「病院に送迎してもらっている人は？」というように、支え合いの例を提示し聞き取りすると出てくる場合があります。また、支え合いの実態が出てきた場合、他にも同じ事例がないか聞き取ると効率的です。

要援護者に対してたくさんの線が出ていた人が、いわゆる“世話焼きさん”と呼ばれる住民であり、逆に誰からも線が引けていない要援護者は、見守りが欠けている可能性がありますので、注意が必要です。この作業が完了した時点で、“住民支え合いマップ”となりますが、この作業の後に、住民支え合いマップから見てきた要援護者の困りごとや、地域の課題など、取り組み課題を整理してその解決策を考えます。



(2) 住民からの聴取（聞き取り）のポイント

① 集めて聞き取りするメリット

おすそ分けや鍵の預け合いなど、支え合いの事例がひとつでも出ると、他の住民からの同じような事例が出てくることがあります。これが住民を集めて聞き取りするメリットです。

② 解決策のヒントを提示する

困りごとに対する解決策の事例を紹介して、支え合いを促すこともポイントです。ただし、このことは多くの事例を把握していることが前提なので、支え合いマップの作成に慣れ余裕がでたときチャレンジしてみてください。

③ 認知症高齢者に着目する

認知症の問題は本人やその家族だけではなく、地域で取り組む必要がある課題です。お集まりいただいた住民から自発的にその情報が出てこないこともありますので、こちらから聞いてみると良いでしょう。また、徘徊ルートが分かれば、マップに書き込み周辺住民が見ていないかを聞き取ることも大切です。

④ つながりの線が引けない人への対応

つながりの線が引けない人がいた場合、本人の視点（昔の仕事や趣味の仲間）から、そのような人がいないかを調べるとあっさり見つかることもあります。

⑤ 孤独死を防ぐ

50～60代のひとり暮らし男性が孤独死する確率はかなり高い状況です。さらに、元気なうちに地域デビューしていないと、要介護状態になったとき助けを求めにくくなります。また、高齢者夫婦世帯に関しても夫婦が元気なうちに地域デビューしておく、片方が要介護状態になった時に住民が支えてくれるかもしれません。つまり、地域とのつながりをつくることで備えることも大切な福祉活動とです。

⑥ 豊かな人生への応援

住み慣れた地域で安全かつ自分らしく生活することは誰もが願うことです。要介護状態になったことで、パークゴルフや趣味のサークルなどをやめてしまうことが多くあります。困りごとの解決だけでなく、その人らしい生活を営むための趣味や本人が楽しみにしていることを応援することも立派な福祉です。支え合いマップの聞き取りの際、それらのことも聞き取ると良いでしょう。

第5ステップ

世話焼きさんと共に、 要援護者等の問題解決方法などを協議する

第4ステップで要援護者を取り巻く支え合いの実態が見えてきますので、ここからは、要援護者や地域の課題を世話焼きさんと共有し、住民が主体となった具体的な解決方法を共に考えます。



第5ステップの留意点

◆当事者の“豊かな暮らし”にも着目する！

要援護者等の問題解決を考えるにあたっては、どうしても「困りごとをどうするか？」という視点で考えがちになります。困りごとの解決も非常に大切ですが、当事者の豊かな暮らしを支援するために、ご本人の趣味や生きがいを支援することも一緒に考えると、これから取り組むことが見えてきやすい場合がありますので、視点を広げて考えてみましょう。

●取り組み課題の整理と解決策

住民支え合いマップの最終目的はご近所の問題の解決策を考え出すことです。その際、問題を抱えた当事者や周りの住民がどのように解決しようとし、また行動しているかを把握し、そのことを手掛かりに解決策を検討していくことが大切です。住民支え合いマップを作成した後に、①地域で気になる人、②地域で気になること、③その他、地域の支え合いで取り組みそうなことなど、取り組み課題整理表（29ページ参照）を使って、地域住民と一緒にその解決策を考えましょう。

取り組み課題整理表(例)

1. 地域で気になる人

地域で気になる人	困りごとや生活状況等	関わっている地域住民	解決策
菅野さん、向井さん	食事はコンビニの配達サービスを利用しているが、来月から廃止になる。		
北村さん	食事はコンビニ弁当ばかり。	加藤さんが、たまにおすそ分けしている。	
菅野さん	町内会の声かけ訪問を拒否。あまり近所と関わりを持とうとしない。	前川さん（町内会で声掛け訪問）	公営住宅に住む小林さんと麻雀仲間ということが分かったので、小林さんから状況を確認する。
星野さん	足腰が悪く、犬の散歩が大変になってきている。	佐々木さんが、買い物送迎や鍵の預りをしている。	町内会の佐野さんが犬好きの世話焼きなので、自分の犬の散歩のついでに、星野さんの家の犬も散歩に連れて行ってもらうようお願いしてみる。
相川さん	50代男性一人暮らし。働き盛りだが、近隣とのかわりがほとんどない。10年後が心配。		相川さんの本業や趣味を生かした役割を提示したり、行事の相談にのってもらうことで町内会に関わってもらう。「お願いする」のがポイント。
塚本さん	認知症の疑いがあるも、家族がオープンにしている様子。徘徊時の事故が心配。	塚本さんの徘徊時に、東出さんが家まで送り届けている。	娘さん夫婦に、地域住民が協力することを伝える。塚本さんから協力してほしいと要請があれば、認知症であることをオープンにし、町内会全体で、意識的に塚本さんの徘徊を見守るようにする。
木田さん	息子さん知的障がいがあり、将来的に母親が亡くなった後、この地域で暮らしていけるのが心配。	隅田さんと鍵の預け合いをしている。	息子さんの趣味の油絵を生かし、個展を開くなど、地域との関わりの機会を増やす。資源回収などの町内会行事に協力してもらう等、地域の一員としての存在感を高め、支え合える雰囲気は今から作っていく

2. 地域で気になること

地域で気になること	気になる内容	関わっている地域住民	解決策
ひとり暮らし高齢者の食事	食事の用意ができない高齢者が多いことが分かった		おすそ分けを実践している住民など、食関連の人材を掘り起こし、本格的な惣菜づくり、販売グループを作ることも検討。調理師の免許をもつ佐々木さんを中心メンバーにする。
送迎の問題	通院や買い物などの交通手段がなくて困っている高齢者が多いことが分かった。	佐野さんが鈴木さんと向井さんを病院まで送迎。佐々木さんは星野さんを送迎している。	ご近所からの要望に都合がつく範囲で送迎してくれる人を探して、送迎チームをつくる。
認知症高齢者	徘徊をする高齢者がいるも、住民全員が知っていることではないので、何かあった時にフォローが難しい。交通事故が心配。	塚本さんの徘徊時に、東出さんが家まで送り届けている。船木さんが徘徊時に見守っている。	接点でさりげなく見守っている人を探し、認知症高齢者のご家族も交えて、見守り連絡会を開くことを検討。ご家族が認知症のことをオープンにしていない場合は、現在関わっている世話焼きが説得にあたる。

3. その他、地域の支え合いで取り組みそうなこと

取り組みそうなこと	関わっている地域住民	備考
自宅の鍵の預け合い ご近所内でどの程度広がっているか調べた上で、仕組み化できないかを検討する	隅田さんと木田さん 星野さんと佐々木さん	

※上記に登場する人物の氏名はすべて架空のものです。

○ 第4～5ステップのまとめ（フローチャート）

① 概ね50世帯分の地図を用意

住民支え合いマップはご近所単位で作成するので、30～80世帯分の地図で作成しましょう。一人の住民がご近所のふれあいの状況を把握している範囲は10世帯程度です。80世帯を超える広い範囲で支え合いマップを作ると、支え合いの実態が見えにくくなります。



② ご近所の主婦4～5人にお集まりいただき聴取

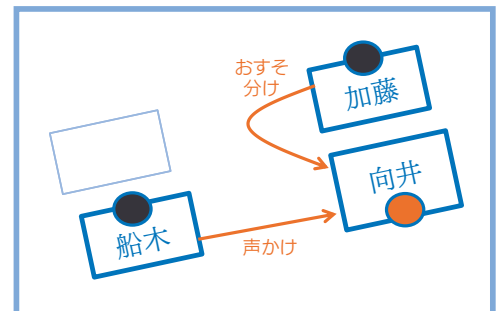
聴取のために、お集まりいただく方々は、ご近所のふれあいや助け合いの実態をよく知っている人を選びましょう。ご近所のご近所の方が一番よく知っています。特に、女性の方がご近所のことをよく知っている傾向がありますので、主婦の方をお願いするのが良いでしょう。



聴取時間の目安は、概ね1時間30分。時間が短すぎると情報があまり出てきません。逆に長すぎると疲労してしまいます。

③ 聴取した内容を、その都度、地図に記入

要援護者や世話焼きさん等に印を付けて線で結びます。その際にどのような支え合いが行われているのかも記入しましょう。

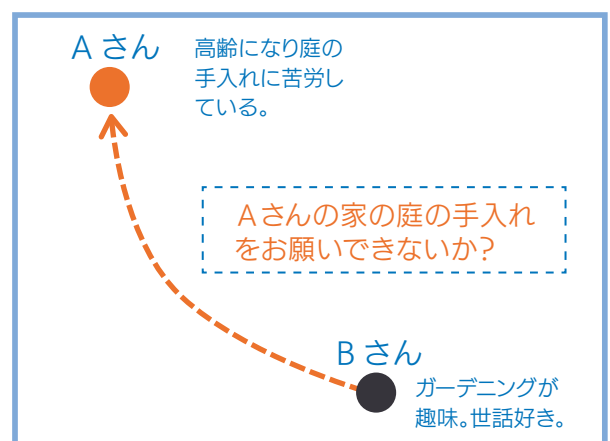


④ 作成したマップから、気になる人や地域の課題を抽出

上記③の過程で概ね住民支え合いマップは完成しますが、そこから特に気になる要援護者や地域に共通する困りごとなどを検討します。

⑤ その課題の解決策を考える

上記④で抽出した特に気になる人の困りごとや地域の課題について、その解決策を考えましょう。まず、優先して考えるのは住民同士の支え合いで解決できないかどうかです。上記③で明らかになった世話焼きさんや、支え合いの実態をうまく生かすことがポイントです。



第6ステップ

住民の手でご近所の課題解決に 取り組んでもらう

第5ステップにより住民が主体となった活動が展開された場合は、民生委員は後方支援に努めましょう。そして、住民主体によるご近所福祉を形作るために、世話焼きさんとの定期的な集まりをもち、情報共有と課題解決を目的としたご近所福祉推進会議をつくりましょう。



第6ステップの留意点

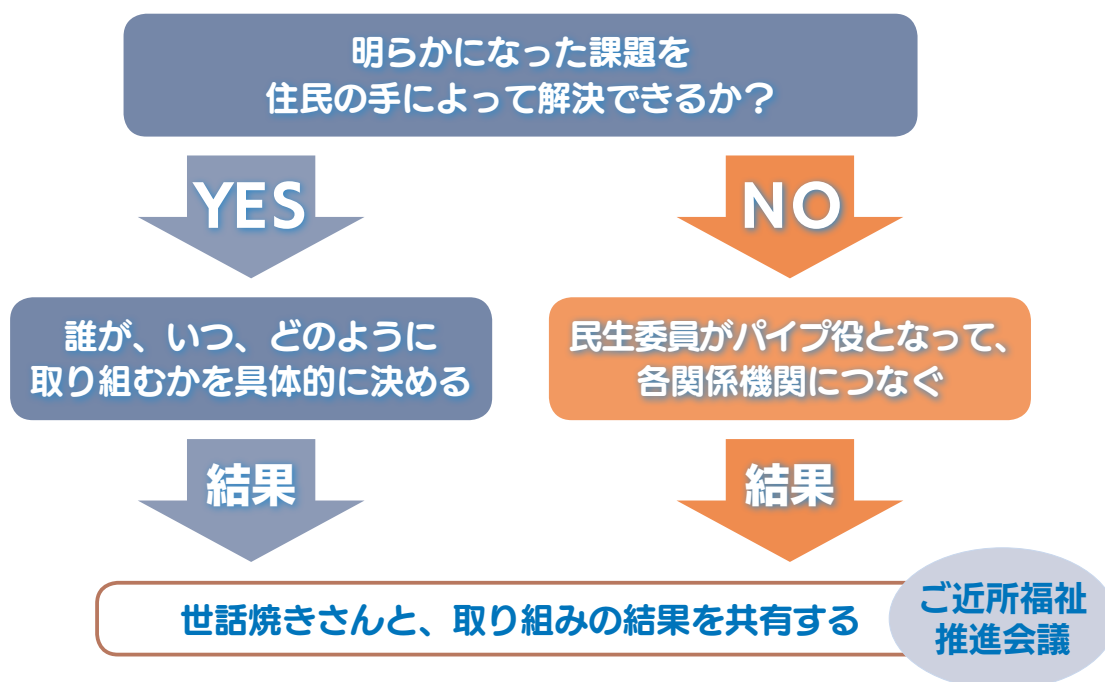
◆とにかくひとつでも課題解決を実践してみる！

住民支え合いマップから見えてきた取り組み課題が複数ある場合、直ちにすべてに取り組むということではありません。実践しやすい課題もあれば、難しい課題もあります。まずは、比較的解決しやすい課題からその解決に向けて取り組むとよいでしょう。そうすることでご近所の雰囲気が変わってくることもあり、別の課題が解決しやすくなる土壌をつくることにもつながります。

◆問題解決をできる限りご近所で！

民生委員は、よく「パイプ（つなぎ）役」と言われます。確かに大きな問題は福祉専門職が関わる必要があるでしょう。ただ、ご近所で解決できるような小さな問題までつないでしまうと、問題に対する住民の当事者意識が薄れてしまうことも確かです。これから必要な「支え合いの地域づくり」のためにも、“ご近所の問題はできる限りご近所で解決する”雰囲気を作っていくことも大切なことと言えます。

●課題に対する取り組みのフロー図



(1) 個人情報の取り扱いのポイント

支え合いマップ作成の過程で出される情報はあくまでも井戸端会議の延長ですが、民生委員が把握している個人情報はその場では、出さないようにしましょう。

民生委員は、非常勤特別職の地方公務員に位置付けられ、調査活動の一環として住民から聴取することに問題ありませんが、プライバシー性の高い民生委員がもつ個人情報の提供は、民生委員法に規定される守秘義務に抵触する可能性があります。

民生委員からの個人情報の提供は控えてください。この点については、集まったご近所の方々にも十分理解してもらいましょう。

地域住民との個人情報のやりとりに関するイメージ図



活動のヒント② 「包括的同意による個人情報の共有」

平成29年5月に個人情報保護法が改正されました。民生委員活動を進めるうえで最も連携が必要な自治会・町内会も個人情報取扱事業者に位置付けられ、個人情報共有の壁がますます高くなっています。

そのことを解決するキーワードは“包括的同意”です。包括的同意とは、「その人への支援という目的の範囲内で、あらかじめ想定される支援の内容や連携を必要とする機関・団体等への最小限の個人情報の提供について予め了承を得ておく」ことです。このように地域住民からの包括的同意を得る仕組みがあれば、民生委員と自治会・町内会（地域住民）と、目的の範囲内で個人情報の共有を図ることができます。

地域の要援護者の中には、包括的同意を拒否する方もいるでしょう。しかしながら、自身の情報を開示して、必要なときに必要な支援を得られるようにしておくことは、“自助”活動とも言えます。要援護者等を支援の受け手と位置付けるのではなく、“ともに住民同士の支え合いを進める担い手”と位置づけ、包括的同意という手段により住民同士支え合いに参画してもらえるようお願いしてみましょう。

(2) 住民支え合いマップを活用した定例会での事例検討と課題の明確化

前述の「住民支え合いマップ作成の6つのステップ」のうち、第1～3までのステップで完了してしまうと、要援護者や地域の課題が明確にならないことが考えられます。そこで、住民支え合いマップを作成した委員ひとりで課題や解決策の整理が難しい場合は、民児協定例会の中で事例検討の機会を設けてみましょう。この事例検討は、第5ステップの一部を補完する取り組みとなります。日常的に実施している事例検討の切り口が、住民支え合いマップに変わるだけですので、普段通りに実施できるのではないのでしょうか。また、事例を通じた民児協の内部研修としても、その効果が期待できます。以下のポイントに留意しながら、チャレンジしてみましょう。

また、定例会での事例検討の実施にあたって、個人情報の取り扱いに関する疑問の声が寄せられますが、民生委員には守秘義務があるので、定例会の中に限って委員同士で個人情報の共有をすること問題ありません。ただし、定例会以外での個人情報や資料（マップ）の取り扱いについては、外部に漏れないよう十分に注意しましょう。

●事例検討にあたって準備するもの

- ① 住民支え合いマップ
- ② 取り組み課題整理表（様式例は29ページ参照）

●事例報告の主な内容

- ① 作成した住民支え合いマップの概要
- ② 特に気になる住民（世帯）と取り巻く状況

●事例報告の流れ

- ① マップ作成委員による説明（プロジェクターで投影できるとスムーズ）
- ② 特に気になる住民の支援や地域課題に関する検討（グループワークが有効）
- ③ 他の委員からのアイデアの報告（発表）
- ④ マップを作成した委員は、提供されたアイデアを参考に再度取り組み課題を検討



事例報告のイメージ

(3) 住民支え合いマップの引継ぎのポイント

民生委員は3年に一度の一斉改選により、およそ3分の1の民生委員が退任し、新たな委員が就任することになります。そこで、住民支え合いマップの引継ぎ方法について整理していきます。

●引継ぎのメリット

① 地域の支え合いの実態

第1に、地域の支え合いの実態が、マップでそのまま引き継げることです。どこに誰が住んでいるのかは知っていても、誰と誰がどのように関わっているのかを把握するのに、新任の委員は大変苦勞します。住民支え合いマップでは、それらの実態が明らかになっているので、新任の委員にとっては、非常にありがたいものとなります。

② 世話焼きなど地域の人材

第2に世話焼きさんなど、地域の人材の引き継ぎも可能だということです。地域の世話焼きさんと前任の委員の関係をそのまま引き継ぐことで、新任の委員は、活動をスムーズに、効率よく進めることができます。

③ 各関係機関との関係性

第3に各関係機関との関係性も引き継ぐことができます。マップ上で、要援護者を支援している関係機関の線をたどれば、地域包括支援センターや社会福祉協議会など、つながる先が容易に見えてきます。

④ 地域の課題

第4に地域の課題も引き継ぐことが可能です。支え合いマップ作りの過程で見えてきた取り組み課題の中で、何を優先して取り組むべきなのか等、その時点で顕在化している課題を引き継ぐことができ、非常に効率的です。

●引継ぎの方法（例）

① 前任委員の事前準備

項目	説明
住民支え合いマップの整理	いつ作成したかにもよりますが、できるだけ最新の情報を記入し整理しておきましょう。
引継ぎシートの作成 ※様式例は31ページ参照	支え合いマップの引継ぎを効率的に行うために、要援護者などの気になる人、関わっている世話焼きさん、地域で気になること、自分が頼りにしている福祉専門職などの情報を引継ぎシートにまとめておきます。 このシートに記入した情報に沿って、支え合いマップと照らし合わせながら、引継ぎを行うと、とても効果的です。また、引継ぎの後に情報を見直す際にも役に立つというメリットもあります。
世話焼きさんとの連絡調整	世話焼きさんにとって民生委員は、要援護者の困りごとを聞いてくれる心強い相談先です。そこで、前任の民生委員は「自分は退任するので、新任の委員を支えてほしい」と世話焼きさんへ伝えその関係を引き継ぐための準備を行います。

② 引継ぎ当日の流れ

プログラム	内容
I. 新任委員へのビデオ研修の実施(約60分)	新任委員に、道民児連が制作した「地域支援調査（住民支え合いマップ）事業研修用DVD（平成30年8月）に収録している「導入編」を視聴してもらい、ご近所による支え合いの考え方についてご理解いただきます。
II. 住民支え合いマップ、引継ぎシートで引継ぎ	原則的には、前任委員と新任委員のペアで実施。事前に作成した引継ぎシートを使って、50世帯のマップごとに引継ぎを行います。
III. （都合が合えば）世話焼き宅へ訪問	前任委員は、新任委員を連れて、自身が関わってきた世話焼き宅を訪問し、新任委員を紹介します。

トピックス

「住民支え合いマップづくりは“福祉教育の場”」

住民支え合いマップを作成すると必ず避けて通れないのは、「支援が困難(しにくい)人」たちの存在です。ひきこもりや認知症高齢者など、大多数の住民は普通に暮らしていれば、ほとんど関わることのない人たち。住民支え合いマップづくりは、“その人たちと共にどのようにこの地域で生きていくのか”ということを考え、地域の課題を我が事（自分事）として捉える良い機会になります。

住民支え合いマップづくりの過程では、昨今の福祉の現状を伝える場面も出てきます。例えば、「50～60代のひとり暮らし男性は女性に比べて圧倒的に孤独死する確率が高い」、「高齢者は85歳を超えると認知症の発症率は40%」など、地域住民にとって耳馴染みのない情報です。

住民支え合いマップづくりは、地域の実態把握や福祉の現状を知るという意味で、民生児童委員だけではなく、地域住民にとっても「福祉教育の場」となり、その点においても「地域福祉の推進」のための有効な取り組みと言えるのです。

各種関係資料

取り組み課題整理表（様式例）

住民支え合いマップ引継ぎシート（様式例）

住民支え合いマップ引継ぎシート（様式例）

取り組み課題整理表（様式例）

1. 地域で気になる人

地域で気になる人	困りごとや生活状況等	関わっている地域住民	解決策

2. 地域で気になること

地域で気になること	気になる内容	関わっている地域住民	解決策

3. その他、地域の支え合いで取り組みそうなこと

取り組みそうなこと	関わっている地域住民	備考

住民支え合いマップ引継ぎシート（様式例）

前任委員		新任委員	
引継地区		引継ぎ日	

1. 気になる人リスト

氏 名	区 分	困りごと等

2. 世話焼きさんリスト

氏 名	連絡先	世話を焼いている人等

3. 地域で気になること

気になること

4. 頼りになる専門職リスト

区 分	氏 名・連絡先	所 属 等
高齢者		
障がい者		
子ども		
生活困窮		

5. その他引継ぎ事項

--

住民支え合いマップ引継ぎシート作成要領

◆はじめに

この引継ぎシートは、基本的に支え合いマップの補足資料です。新任委員に支え合いマップを引き継ぐ際、予めこのシートで整理をしておくこと、スムーズな引継ぎが行えます。下記の点に留意しながら作成をしてください。

◆基本事項

- ・このシートは、前任者が支え合いマップ（概ね50世帯）ごとに作成してください。
- ・このシートを支え合いマップとペアで引き継いでください。
- ・個人情報に掲載されていますので、引継ぎ以外の目的には一切使用しないでください。
- ・既に作成している「福祉票（世帯票）」などと合わせて引き継ぐと効果的です。
- ・このシートはご自身の分かる範囲で作成してください。このシートを作成するために、改めて調べ直さなくても結構です。特に何もなければ、空欄を全て埋める必要はありません。

◆「気になる人リスト」の記入

- ・マップ上に載っている高齢者等を全員記載する必要はありません。
- ・特に気になる世帯、個別に引継ぎが必要と思われる世帯（人）を記入してください。

◆「世話焼きさんリスト」の記入

- ・現在、高齢者等の世話を焼いている住民と世話を焼いている内容を、分かる範囲で記入してください。
- ・特に、気になる人リストに名前が載っている人の世話焼きさんを記入しておくこと、つながりが見えてわかりやすいです。

◆「地域で気になること」の記入

- ・住民に共通する生活課題など、気づいた点があれば記入してください。

◆「頼りになる専門職リスト」の記入

- ・自身の民生委員活動を振り返り、活動を進める上で役に立つと思う専門職（人）を記入してください。

◆「その他引継ぎ事項」の記入

- ・上記のリストには該当しない事項を記入してください。

住民支え合いマップ引継ぎシート（記入例）

前任委員	民生 太郎	新任委員	北海 花子
引継地区	〇〇町2丁目	引継ぎ日	平成28年12月1日

1. 気になる人リスト

氏 名	区 分	困りごと等
隅田さん	高齢者	80代女性。一人暮らし。昨年、ご主人を亡くしている。 木田さんと仲が良く、鍵の預け合いをしている。
木田さん	障がい者	母と息子の2人暮らし。 30代の息子が知的障がい。作業所に通っている。 隅田さんと仲が良く、鍵の預け合いをしている。
塚本さん	高齢者 認知症	80代女性。息子夫婦と3人暮らし。 認知症の疑いがあるも、家族は隠している様子。
菅野さん	高齢者	70代男性。一人暮らし。民生委員の訪問を拒否。 食事の宅配サービスを利用している。食事は自分で作れない。 公営住宅の小林さんと麻雀友達。
星野さん	高齢者	80代女性。一人暮らし。足腰が弱く、外出が難しい。 佐々木さんに自宅の鍵を預けている。犬の世話が大変らしい。
鈴木さん	高齢者	80代女性。一人暮らし。
相川さん	その他	50代男性。一人暮らし。大川建設勤務。平日は仕事に行っているが、休日は家に引きこもっていることが多い。

2. 世話焼きさんリスト

氏名	連絡先	世話を焼いている人等
船木さん	〇〇-〇〇〇〇	隅田さん、木田さんに声かけ。塚本さんも徘徊も見守り。
佐々木さん	〇〇-〇〇〇〇	星野さんを車で買い物に連れて行く。自宅の鍵も預かっている。
前川さん	〇〇-〇〇〇〇	星野さん、鈴木さんに声かけ。
東出さん	〇〇-〇〇〇〇	徘徊している塚本さんを自宅に送り届けている。
佐野さん	〇〇-〇〇〇〇	町内会の総務部長。鈴木さんを車で病院に送迎している。

3. 地域で気になること

気になること
一人暮らし高齢者が多く、きちんと食事ができているか心配。
認知症で徘徊する高齢者がいるが、住民全員が知っていることではないので、何かあった時のフォローが難しい。

4. 頼りになる専門職リスト

氏名	連絡先	世話を焼いている人等
高齢者	鈴木 一郎さん 〇〇-〇〇〇〇	地域包括支援センター 良く外勤しているので携帯電話にかけるとつながる。
障がい者	田中 次郎さん 〇〇-〇〇〇〇	市役所福祉課障がい福祉グループ
子ども	高橋 三子さん 〇〇-〇〇〇〇	子育て支援センター
生活困窮	佐藤 四男さん 〇〇-〇〇〇〇	社会福祉協議会地域福祉課
民児協事務局	伊藤 五郎さん 〇〇-〇〇〇〇	市役所社会福祉課

5. その他引継ぎ事項

<p>①菅野さんは訪問を拒否しますので、小林さんに普段の様子を聞くと良いです。</p> <p>②星野さんは最近足腰が弱くなり犬の散歩に苦労している様子。佐野さんがよく犬の散歩をしているので、頼んでみると良いかも。</p> <p>③住民から相談を受けて、どこに連絡すれば分からないときは、事務局の伊藤さんに聞くといろいろと教えてくれます。</p> <p>④民生委員も退任しても、一人の住民としてお手伝いしますので遠慮なく言ってください。</p> <p>⑤支え合いマップの作り方で分からないことがあれば、〇〇地区の藤田六輔委員に聞くと丁寧に教えてくれます。</p>
--



民生委員児童委員のための

住民支え合いマップづくり入門(改訂版)

令和3年3月発行

公益財団法人 北海道民生委員児童委員連盟
〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目 かでる2.7
北海道社会福祉総合センター4階
TEL (011)261-2181